

BAT OCHIR BALJINNYAM

1. 事業実施の目的

博士論文研究執筆のためのフィールド調査

2. 実施場所

モンゴル国ウブスハンガイ県ハラホリン郡

3. 実施期日

2024年8月10日(土)～2024年9月14日(土)

4. 成果報告

●事業の概要

1. 研究の目的と概要

本調査の目的は、モンゴルの遊牧民が持つ家畜に関する識別知識、特に家畜の毛色情報に着目し、自己の家畜のみならず他者の家畜に関する知識の範囲と深さを明らかにすることである。そして、写真による記録という視覚データに加えて、聞き取り調査という質的データを収集した。

報告者の博士論文の目的は、モンゴル遊牧社会における家畜の「互奪性」を含めた「交換」のメカニズムを、歴史的な変化も含めて総合的に解明することである。報告者の今までの研究結果において、モンゴル遊牧社会では一見すると「家畜泥棒」と思われる現象が、実は遊牧民たちがゲームのように相互的に家畜の取り合いをしているという事実を発見した。さらにこうした「家畜泥棒」は社会主義時代、畜産物の生産を巡ってノルマの達成した牧畜民と達成できなかった牧畜民との間で、家畜の数を調整する役割を果たしていたことが、聞き取り調査を通じてわかってきた。

さらに、こうした否定的な意味をもたない家畜の「互奪性」が可能となる背景には、先行研究が前提としてきた家畜の「所有権」という発想がそもそも遊牧民にはないのではないかと考えた。つまり家畜の特徴を示す「毛色情報」が近隣の遊牧民の間で共有されていることがわかってきたのである。報告者は去年のフィールド調査でモンゴルの遊牧民にとって家畜の所有権は実体として存在しておらず、家畜に関する情報、とりわけ「毛色の情報」のみが遊牧民たちによって「所有」され、しかもこの抽象化された情報が贈与と交換されることを、ある程度、明らかにしてきた。

モンゴル遊牧社会においては、家畜を贈与することをモンゴル語で「毛色で与える」(マル・ズスレジ・ウグフ, *Malzuslejögökh*) と言い慣わす。マルは家畜という意味、ズスは家畜の毛色・特色・特徴をという意味、ウグフはあげるまたは与えるという意味である。遊牧民の間では、相手に家畜を贈与するとき、「この毛色の家畜をあなたに贈る」という言い方をする。報告者はこのように贈与された者が家畜を占有することを「毛色情報による占有」

と呼ぶことにした。遊牧民がこの「毛色情報」を占有するようになるのは、生後3日以降からである。モンゴルでは新生児が生後3日から一週間の間に「フーフッド・オガーハ (*khüükhed ugaakh yslol*)」と呼ばれる子どもの洗礼が行われる。洗礼は、親戚や宿営集団を呼んで行われる。その際に、新生児に対して家畜を贈与する。洗礼は、名づけの儀礼でもある。子どもを取り上げた産婆の主導の下で、家族や親類、同じ宿営地の隣人たちが集って行われる。まず産婆は新生児に対して羊の毛皮のおくるみを贈る。そして新生児をハルツァイ (黒茶) と呼ばれる濃い茶で洗ったあと、おくるみで包む。続いてラマ僧もしくは産婆によって名づけが行われる。ラマ僧や産婆は、名前を子どもの生母の耳元でささやく (島村2023)。

これまでの研究では、仮説を立てるための観察や聞き取り調査を行うことができたが、仮説を立証するには、データがまだ十分ではなかった。とりわけ、家畜の毛色に関する画像データが足りなかった。そこで、今回の調査においては、子どもの断髪式に参加し、儀礼において「毛色で与える (マル・ズスレジ・ウグフ)」という形式で家畜が贈与される様子を観察するとともに、具体的に家畜の毛色を示す写真による画像データや聞き取り調査による質的データを収集した。

2. 研究方法・内容

今回の調査では、以下の2点を中心に調査を実施した。第一に、家畜の毛色情報の贈与に関する儀礼の調査である。モンゴルの遊牧民が幼少時の洗礼や断髪式での毛色情報の贈与の具体的な毛色の種類や、それが大人になって実体として贈与されたとき、どのような毛色の家畜をもらったのか、聞き取りを行った。第二に、研究対象 Bo 氏の家畜群に関する調査である。ここでは、研究対象の遊牧民 Bo 氏が占有する馬群の写真を撮影し、近所の人々に見せながら毛色情報と写真を照合させるための聞き取り調査を行った。

●本事業の実施によって得られた成果

3. フィールド調査の成果

今回のフィールド調査により、博士論文の第5章に必要な基礎データを収集することができた。具体的には以下の成果が得られた。

第一に、研究対象者である Bo 氏の親戚 M 氏の家で行われた髪にまつわる通過儀礼的な子どもの断髪式に参加し、家畜を贈るという名目の下で子どもに対して「毛色情報」が贈られる「毛色で与える」(マル・ズスレジ・ウグフ, *Mal zuslej ögökh*) という儀礼を観察した。さらに、数多くの遊牧民に対して、聞き取り調査を行った。この贈与儀礼により、家畜の物理的な「所有権」ではなく、「毛色情報」が贈与されていることが明確に確認できた。



写真 1. M 氏の長男の断髪式
(筆者撮影)

第二に、研究対象の遊牧民 Bo 氏が占有する馬群（すべて、48 頭の馬）の写真を撮影した。彼（Bo 氏）が占有する 48 頭の馬に関して、全ての馬の毛色の特徴や、それぞれの馬がどのように取得されたか（贈与、交換、互奪など）についての詳細な情報を得た。また、近隣の遊牧民（大人 6 名、子供 2 名）に対しても聞き取り調査を行い、遊牧社会における家畜の識別知識の実態を解明するためのデータを収集することができた。具体的な内容は博論のなかで記述する。



写真 2. Bo 氏が占有する馬群の一部
(筆者撮影)

これらのデータは、モンゴルにおける家畜の交換を中心とした「経済活動」の実態を解明する上で重要な資料となる。さらに、遊牧社会における家畜の贈与や交換の意味を再考し、従来の家畜牧畜を単なる生業として捉えるのではなく、贈与や交換、互奪を含めた複合的な社会・経済活動として位置づけるための基盤となる。

●本事業について

本事業に採択されたことにより、今後の博士論文執筆の上で最も重要なデータを得ることができた。さらに、本事業を認可していただいたことに感謝の意を表するとともに、専攻の先生方および担当者に御礼申し上げます。今後とも、このような事業が継続されることを希望します。